

“

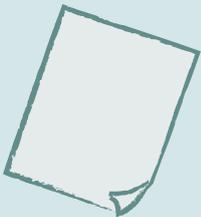
紙

全国小中学生

リサイクル”

コンテスト2025

入賞者一覧・受賞作品 作品集



主 催

公益財団法人古紙再生促進センター

後 援

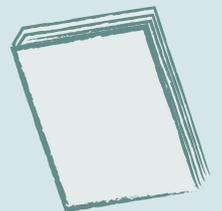
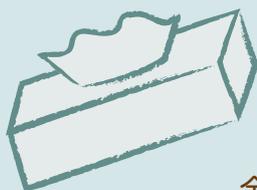
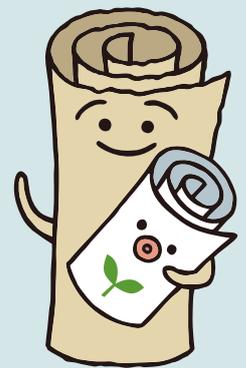
文部科学省

全国連合小学校長会 全日本中学校長会

全国市町村教育委員会連合会 全国小中学校環境教育研究会

全国製紙原料商工組合連合会 日本再生資源事業協同組合連合会

段ボールリサイクル協議会 日本製紙連合会



2025年度 入賞者一覧



文部科学大臣賞

作文部門 兵庫県 加古川市立氷丘南小学校 5年
井原 彪 友よ、また会う日まで

ポスター部門 大阪府 大阪市立董中学校 3年
中井 悠仁 回してなんぼ 紙も地球も 未来の資源やで



金賞

作文 小学生部門 福岡県 明治学園小学校 6年
能美 にな 究極の未来の輪の中へ

作文 中学生部門 大阪府 咲くやこの花中学校 2年
森田 智 紙にもう一度いのちを

ポスター 小学生部門 兵庫県 豊岡市立豊岡小学校 4年
田中 優羽 紙リサイクル広げよう

ポスター 中学生部門 広島県 広島市立二葉中学校 1年
中岡 優里 みんなの未来へ リサイクル



特別金賞

全国製紙原料
商工組合連合会
理事長賞 北海道 札幌市立資生館小学校 6年
縄 乃々香 私たちまだ生まれ変われます!
(ポスター)

日本再生資源事業
協同組合連合会
会長賞 愛媛県 愛媛大学教育学部附属小学校 2年
若狭 早 なんと大きなトイレトペーパー
(作文)

段ボール
リサイクル協議会
会長賞 広島県 広島市立二葉中学校 1年
江角 南桜 見つけよう!リサイクルマーク
(ポスター)

銀賞

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	愛知県	名古屋市立川原小学校	5	神谷 すみれ	紙一枚から考える未来
	中学生部門	静岡県	静岡市立清水飯田中学校	2	宮原 心美	生まれ変わる紙「古紙」
ポスター	小学生部門	神奈川県	相模原市立谷口台小学校	4	山田 恵美	ぼくたちの気持ち
	中学生部門	山口県	岩国市立岩国中学校	2	森本 穂乃佳	未来ヘダンクシュート!!

銅賞

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	東京都	荒川区立第二日暮里小学校	4	安喰 みあ	ざつがみ様をさがせ
		大阪府	中之島小中一貫校	6	水野上 タ乃	世界中の人々と地球を笑顔に
		静岡県	静岡サレジオ小学校	4	牧田 桜子	古紙リサイクルの大切さ
	中学生部門	宮崎県	都城市立姫城中学校	3	北郷 優斗	都城から考える 紙を大切に使う心
		神奈川県	横浜市立中川西中学校	3	友永 陽菜	みんなで進める紙リサイクル
		高知県	いの町立本川中学校	3	高橋 そよか	リサイクルって、紙の第二章。
ポスター	小学生部門	兵庫県	姫路市立広畑第二小学校	2	赤木 紗彩	せかいじゅうのみんなで紙リサイクル
		福岡県	古賀市立古賀東小学校	3	大嶋 陽葵	ぼくたちのゴールはリサイクルだ!
		京都府	福知山市立惇明小学校	5	迫田 夏知	広げよう!つなげよう!紙リサイクル
	中学生部門	愛媛県	今治市立大三島中学校	2	木村 佳奏	リサイクルは離再来る
		東京都	北区立稲付中学校	3	金子 かりん	まずは知ろう
		山形県	山形大学附属中学校	1	佐藤 綾芽	よーいドン! リサイクルのバトンをつなげ!!

学校特別賞

東京都 荒川区立第三日暮里小学校

学校奨励賞

中学校部門 広島県 広島市立二葉中学校

小学校部門 東京都 荒川区立第三日暮里小学校

目次

3-4P	文部科学大臣賞受賞作品
5-8P	金賞受賞作品
9-11P	特別金賞受賞作品
12-13P	銀賞受賞作品
14-19P	銅賞受賞作品
20P	学校特別賞受賞校紹介 紙リサイクルコンテスト紹介
21P	学校奨励賞受賞校紹介
22P	審査会ノミネート校・教室一覧

応募総数：2,112点

応募校数：97校 教室、塾など：10校 個人応募数：78件



文部科学大臣賞 作文部門

加古川市立氷丘南小学校 5年

井原 彪

友よ、また会う日まで

紙リサイクルは、資源の引っこしだ。次の場所で活か
やくできるように、ぼくたちが資源を送り出してあげ
なくちゃいけない。

今年の夏に引っこしをしたことがきっかけで、紙の
リサイクルに関心を持つようになった。引っこしは、
紙やダンボールといったこん包資材を使用する。家族
の大切な思い出と荷物を、紙たちがやさしく包んで
守ってくれた。引っこしが終わり、荷解きをすると、
部屋のすみに古紙の山ができた。荷造りをしていると
きにも感じたが、引っこしはおどろくほどたくさん
紙やダンボールといった資源を使う。ぼくたちのくら
しは、資源に支えられているのだ。しばらくして、大
量の古紙は、引っこし屋さんに取り取られていった。
新しい生活にも慣れてきたころ、「回収された紙たち
はどうなったのだろう。」と、古紙の行方が気になった。
引っこし屋さん聞いてみると、古紙は分別後に業者
に持ちこまれ、リサイクル工程を経て再生紙に生まれ
変わると教えてくれた。ぼくたちは引っこしで使った
紙やダンボールも、リサイクルされてどこかでだれか
の役に立っているかもしれない。そう思うと、なんだ
かうれしくなった。

古紙のリサイクルは、どれほど進んでいるのだろう
か。調べてみると、昨年日本で回収された古紙は千六
百七十七万トン。なんと、古紙回収率は八割をこえて
いる。多くの人が資源やかん境について考え、紙リサ
イクルに取り組んでいることがうかがえる。

リサイクルは、限りある資源を守り、豊かな地球を未
来につなぐために必要な仕組みだ。

ぼくも身近なところから紙のリサイクルを始めよう
と、ごみ箱の横に古紙分別用の箱を置くことを母に提
案した。実際に置いてみると、今まで「面どうだから。」
という理由で捨てられていた紙たちが、リサイクル
ボックスに入れられるようになった。古紙の行き先は、
ごみ箱かリサイクルボックスか。ぼくたちの意識と工
夫で、未来を変えることができる。

古紙を分別するなかで、紙バックやダンボールと
いったリサイクル可能な製品についているリサイクル
マークが参考になることも学んだ。引っこしで使用し
たダンボールにも、「ダンボールはリサイクル」とい
う文字と引っしよにこのマークが書かれていた。ほか
にも、リサイクルマークには、古紙を原料に利用した
製品についているグリーンマークなどがある。リサイ
クルマークは、人にもかん境にもやさしい未来への地
図だ。地図があれば、迷わずに資源を送り出し、また
迎えてあげることができる。

紙リサイクルの意義を知ったことで、ぼくも積極的
にリサイクルに取り組むようになった。「ありがとう。
また会おうね。」と、リサイクルステーションで古紙
を見送る。リサイクルの輪ののって、ぼくたちは出会
いと別れをくり返す。紙リサイクルは、資源の引っこ
しだ。地図を片手に、人が生き、資源が活きる社会を
未来へとつないでいこう。

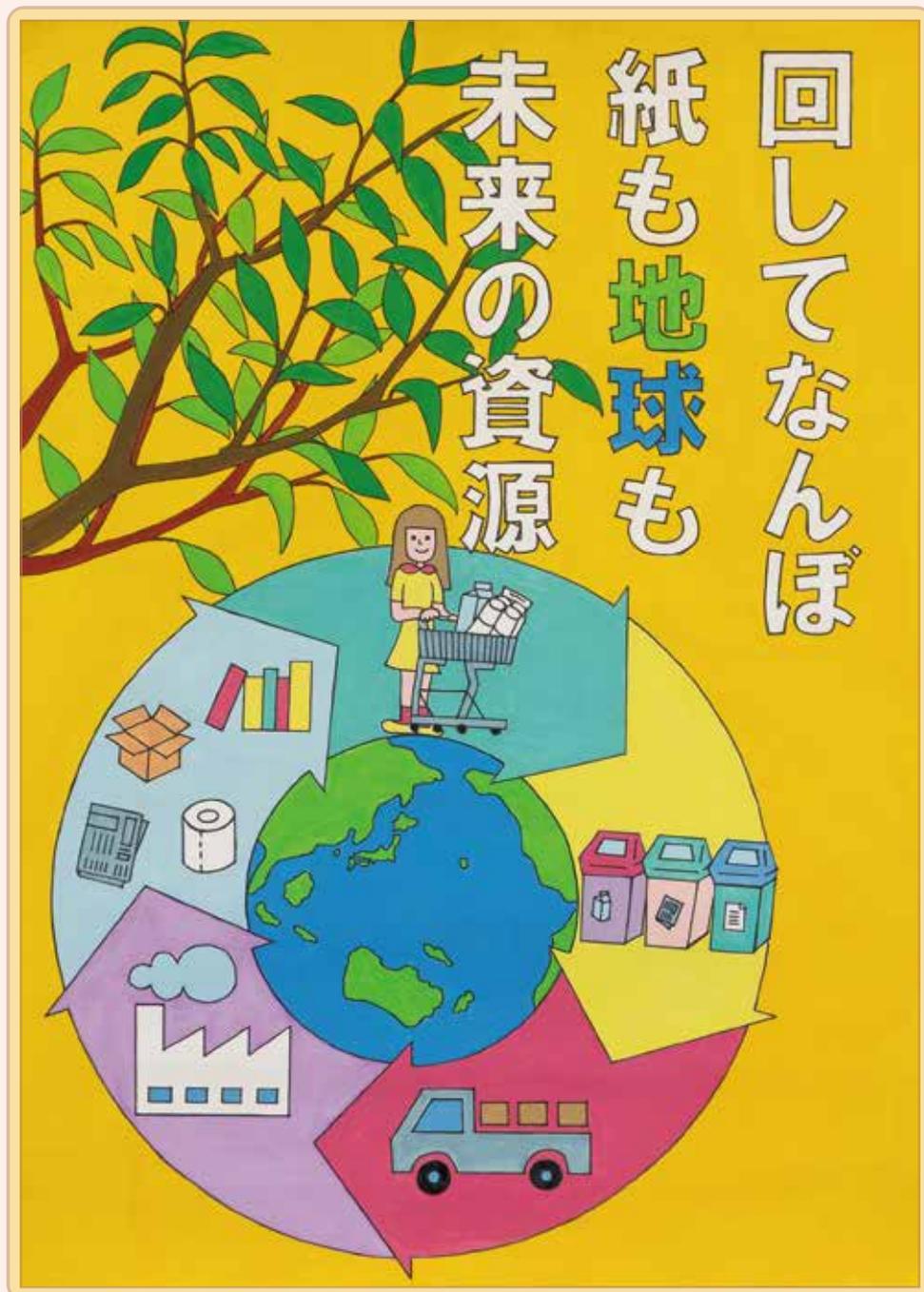


文部科学大臣賞 ポスター部門

大阪市立董中学校 3年

中井 悠仁

回してなんぼ 紙も地球も 未来の資源やで



金賞

明治学園小学校 6年

能美 にな

究極の未来の輪の中へ

六年間、特に雑がみについて調べてきた。周知から分別の方法、リサイクル活動の継続など考えてきたが、ふと思った。もしかしたら、まだ気付いていないことがあるかもしれない。実際の現場を見てこそわかることが、まだまだたくさんあるのではないだろうか。

この夏私が訪れたのは、雑がみをトイレットペーパーにリサイクルする工場だ。はじめに目に入ったのは、ブロックのように圧縮された雑がみの大きなかたまり、ベールだ。この工場では一個一トンものベールを、なんと一日に百個も処理しているそうだ。ベールは運ばれ、インクや異物を取り除かれる。そして繊維状の『紙の赤ちゃん』である再生パルプへと変身した雑がみは、その後抄紙と呼ばれる過程で高速乾燥される。出来上がるのは大きなトイレットペーパーのロール、通称ジャンボロールだ。一巻きを一人で使うと三百年も使えるらしい。もしも徳川吉宗が生きていたら、やっと今「替えよう」と思うのだと考えると、思わず笑いがこぼれてきた。周りに何個も並んでいるジャンボロールはその後巻き直してカットされ、みるみるうちに私達がよく見るトイレットペーパーへと生まれ変わっていった。

実際の現場を見て驚いたことがある。雑がみリサイクルの過程では、さまざまな副産物が発生する。異物として除去された金属、プラスチック、パルプを作るときに出るスラッジなどだ。スラッジは固められ、

近くにある製鉄所で使われる。プラスチックは固形燃料に再生されるし、金属もリサイクル業者に回収されるらしい。また、リサイクルの途中で穴が開いたりして商品にならないトイレットペーパーは工場内で『振り出し』に戻り、原料として再スタートしていた。つまりこの雑がみリサイクル工場は、環境負荷物質を出さない、まさに究極のリサイクル工場だったのだ。この工場から出るごみは従業員を食べかすくらいだよと、案内してくれた方が笑って教えてくれた。他にも、過去にはリサイクルが難しいとされていたシュレッターにかけた紙なども、最近では原料として扱えるようになってきたという。「古紙の世界っていうのはすごく循環型なんだ。いろいろな種類の紙をリサイクルに回せるように、僕たちもどんどん進化しているんだよ」と、工場の方が誇らしそうに教えてくれた。

六年間で調べつくしたと思っていたが、百聞は一見に如かず。実際の現場を見て、新しく知ることがたくさんあった。何より、雑がみリサイクル工場は、進化し続ける究極のリサイクル工場だということが分かった。私たちは雑がみをリサイクルすることで、この最先端の技術とエコの輪の中に入り、究極のリサイクルメンバーの仲間になることができる。

さあ、私たちも進化を続けよう。もつと輪を広げよう。今よりももつとと素敵な、究極の未来を目指して。

金賞

咲くやこの花中学校 2年

森田 智

紙にもう一度いのちを

「じゃあ授業終わります。」先日、先生が学校で重版に使う紙についての話題を取り上げた。学校で使った紙のその後については今まで考えたことも無かったので、とても印象的だった。後日、詳しく話を聞くことにした。

職員室には、片面だけに印刷された紙と両面印刷された紙とで分けて集めるところがあり、使わなくなった紙でリサイクル可能なものから古紙回収のための箱に集められる。生徒の名前など個人情報に記載されているものはシュレッダーに掛けてから。学校のゴミ捨て場には、ゴミを捨てる場所は別に、古紙回収のスペースも設けられている。職員室で集められたプリントやコピー用紙は、雑がみとして、この古紙回収に出す、といった取り組みが行われていることを教えて頂いた。

職員室ならば、取り組みが決められているので一貫して紙リサイクルに取り組むことができる。しかし生徒に配られたプリントは各家庭に委ねられるため、そうはいかない。

そこで私は、生徒は学校から貰ったプリントをどのように処理しているのか疑問に思い、アンケートを取ることにした。学年内五十人の協力を得て、三つの質問に答えてもらった。

まず一つ目の「紙リサイクルの存在を知っているか」という質問に対し、はいと答えた人は八十四%、いいえと答えた人は十六%だった。

二つ目の「住んでいる地域での古紙回収の取り組みはあるか」という質問に対しては、あると答えた人は三十%、ない、わからないと答えた人はいずれも三十五%となった。そして三つ目の「学校からもらったプリントはどのように処理しているか」という質問に対しては、裏紙として使うと回答した人が二十四%、ゴミとして捨てるかと回答した人が六十六%、古紙回収に出すと回答した人は僅か十%という結果となった。十%という数字は、決して大きいとは言えない。

三つの結果から「古紙回収の取り組みが行われているのを知っているが参加していない」または「紙リサイクルについて知っているが居住地域での取り組みが無い、わからないために古紙回収の取り組みができない」の二つのパターンが多く見られることがわかる。

「知らない・できない・踏み出せない」この三つの課題を解決できれば、紙リサイクルは大幅に前進するのではないだろうか。例えば、地元の小学校で古紙回収の取り組みを行ったり、地域ごとに一年間で古紙回収された紙の割合で競い合ったりするなど、紙リサイクルを知るきっかけを作り身近に感じてもらうことで、自分にも関係があることなのだと考える人が増えるはずだ。

幅広い場面で電子媒体が採用される今だからこそ、学校や普段の生活で欠かせない紙がある。紙を使うのは、私達。紙にもう一度いのちを与えるのも、私達だ。

ポスター小学生部門

金賞

豊岡市立豊岡小学校 4年

田中 優羽

紙リサイクル広げよう



ポスター-中学生部門

金賞

広島市立二葉中学校 1年

中岡 優里

みんなの未来へ リサイクル



全国製紙原料商工組合連合会 理事長賞

特別
金賞

札幌市立資生館小学校 6年

縄 乃々香

私たちまだ生まれ変われます！



特別
金賞

愛媛大学教育学部附属小学校 2年

若狭 早

なんと大きなトイレトペーパー

ひょうしょうしきのぶたいに、「ゴロンゴロン。見たことないほど大きな「白いロール」がころがってきて、ぼくはびっくりした。

「こちらはトイレトペーパーのとく大レプリカですー」

それを高校生のお兄さんお姉さんがニッコリえがおでうけとり、はく手がおこった。

はいくの町・えひめけん松山市で毎年行われる大会には、かわったトイレトペーパーがとう場する。松山市の「きみつ文書」をリサイクルしたトイレトペーパーで、なんと十年分。じつは「紙リサイクルの大切さ」を多くの人に知ってもらうため、インパクトたっぷりのおひろめをしているのだ。

会社のじゅうようなじょうぼうが書かれたきみつ文書はとりあつかいちゅうい。

「古紙回しゆうがなんとなく、ふあん。」
と言って、つかいおわった文書、つまり「ざつがみ」をためてしまう人もいるそうだ。それでは紙リサイクルの「わ」が回らなくてこまってしまふ。

あんぜんに、きみつ文書を回しゆうできるシステムがあること。そしてトイレトペーパーに生まれかわること、しげんをさいりようできること。これらを知れば、ねむったままのしげんを紙リサイクルの「わ」に入れられるようになる。知ることは大きな力だ。

では、これからの紙リサイクルはどのようなものになるのだろうか。

小学生のぼくにもできることはあるのだろうか。知りたいことがふえたぼくは、家の近くの古紙回しゆう会社にお話を聞くことにした。社長さんからいただいたおへんじは、つぎのものだった。

古紙はこれから、もっときちようなしげんになるということ。人口がへり、ペーパーレス社会となり、紙をつかう人もそのりようもへっていることを教えてもらった。たとえば、松山市では、れいわ六年に「ついに人口五十万人われ」がニュースとなった。日本ぜん体だともっと大きい数字になる。それでも今、生きている人にとつて紙は生活になくはならない。だからこそ古紙を正しく分けて、リサイクルすることが大切なのだ。

そして、小学生にできる紙リサイクルもあるということ。家で古紙を正しく分けることのほか、小学校でとり組める紙リサイクルについて教えてもらった。それは「きゆう食の牛にゆうパック」をひらいてあらい、回しゆうしやすいようにすること。もつとり組んでいる小学校では、紙リサイクルの大切さがしつかりつたわっているそうだ。

社長さんのお話のおかげで、ぼくは目ひようができた。それは「きゆう食の牛にゆうパック」のとり組みをたくさんの小学校に広めることだ。その時はインパクトたっぷりのとく大レプリカをよいうして、紙リサイクルの「わ」を分かりやすく見せたいと思う。

段ボールリサイクル協議会 会長賞

特別
金賞

広島市立二葉中学校 1年

江角 南桜

見つけよう！リサイクルマーク





紙一枚から考える未来

社会の授業でリサイクルについて学んだ。使い終わった紙がもう一度紙として生まれ変わることがあることを知り、私は身のまわりの紙に目を向けるようになった。

ある日、机の引き出しを整理するとプリントやテストなどの紙が山のように出てきた。ふだんは気にもとめずに資源に回していかった紙がこんなにもあることにおどろいた。紙一枚のむこうには、つくるために使われた多くの力があると知り、紙をどう扱うかもっと考えてみたいと思った。家ではお母さんがダンボールを資源として出している。調べるうちに「雑がみ」という言葉を知った。ティッシュの箱、チラシ、メモ用紙など、ふだん見過ごしていた紙も古紙として活かせることがわかり、私は家に雑がみをためる箱をつくった。一週間ためてみると箱はすぐにいっぱいになった。これまで資源に回していなかった紙が、実はたくさんあったことに気づいた。その結果、家庭ごみの45リットルのふくろは毎週2袋分だったものが1袋分になった。1袋分の紙が古紙として再生の道に進んだと思うと、自分の行動が未来につながるように感じた。学校でも、雑がみをまとめて入れる袋がクラスに置かれている。友だちがそこへ紙を分けている姿を見ると、「小さな行動が大きな力になる」と実感した。家でのとりくみと学校のとりくみがつながったようで、少しほろらしい気持ちになった。とりくむ中で、課題だと思ったこともある。それは雑がみとして出せる紙を知らない人が多いということだ。また、古紙にできない紙がまざると困ることも知った。そこで私は、家と学校でできる解決策を考えた。一つ目は、雑がみとして出せる紙をすぐに分けられるよう、家の目につきやすい場所に箱を置くこと。二つ目は給食時の放送を使って、紙リサイクルのクイズを出すことだ。そうすれば、学校全体が紙リサイクルについて意識できるようになる。こうした工夫があれば、紙が正しくじゅんかんできると思う。

紙一枚の重さは軽いけれど、その一枚が再生の力を持っている。私はこれからも紙を資源として活かすことを続け、未来をつくる一人として行動していきたい。未来を変える力は、私たち一人ひとりの手の中にあるのだから。



生まれ変わる紙「古紙」

「古紙回収」と大きく書かれた看板が私の両親が働く会社です。私の家は、古紙回収を行っています。なので、家でも常に古紙回収ボックスがあります。「自分が出した紙は責任を持ってリサイクルに回す」これが私達が普段やっていることです。

今までは、紙をゴミ箱に捨ててそのままお母さんに「こっちにに入れて」と言われていました。ですが、今では体に染み付いています。紙が出たら回収ボックスへ。服についている小さいタグも入れられるまでクセが付きました。私は、小学校のときに両親にどんな仕事をしているのか聞きました。それから、興味を持ち率先してリサイクルに協力するようになりました。私達がリサイクルに回した紙はトイレトーパーに生まれ変わります。実際、家でも再利用のトイレトーパーを使っています。普通、スーパーやネットには売っていないので特別感があります。

ところで、「古紙」と言ったら何を思い浮かべますか。もう、汚くて使えない紙、ぐちゃぐちゃで使い道のない紙、読み終わった新聞紙、子供が遊んだけど散らかったままの紙などを思い浮かべる方が多いと思います。私もはじめはそう思っていました。ですが「古紙」とは「一度使用済みでリサイクルできる紙」のことを指します。つまり「古紙」とは「まだ使える、生まれ変わる紙」ということです。でも、わざわざ回収ボックスを作ってまでリサイクルをしようと思う方は少ないと思います。私は、リサイクルを始めた頃に考えました。私達が普段身につけている服は洗うと何度も使えますよね。でも、紙は洗ったらシナシナになってしまい、使えなくなりますがね。なので、紙は洗って再利用することはできません。だからこそ「リサイクル」という手段がありません。

私達の服は服の意思で洗濯機に入り洗っているわけではありませんが、人間が洗濯機に入れてボタンを押します。それで、やっと洗うことができます。紙も同じです。紙も紙の意思でリサイクルはできません。私達人間が自分から進んでリサイクルをしなければ、何も始まりません。私は、そう考えリサイクルを率先してやるようになりました。私達が住んでいる地球はとてもいい環境です。ですが、住まわせてもらっている私達が、汚したら地球への負担はとて大きくなります。私達が住まわせてもらっている側なので、恩返しをしませんか。紙のリサイクルは、大変かもしれませんが、今はスーパーに行けば、回収ボックスがあります。はじめは回収しやすい牛乳パックから始めてもいいと思います。まずは、一歩踏み出してほしいです。紙は、再利用してもらいたくても人間が動かなかったら、再利用してもらえません。リサイクルは地球への恩返しです。

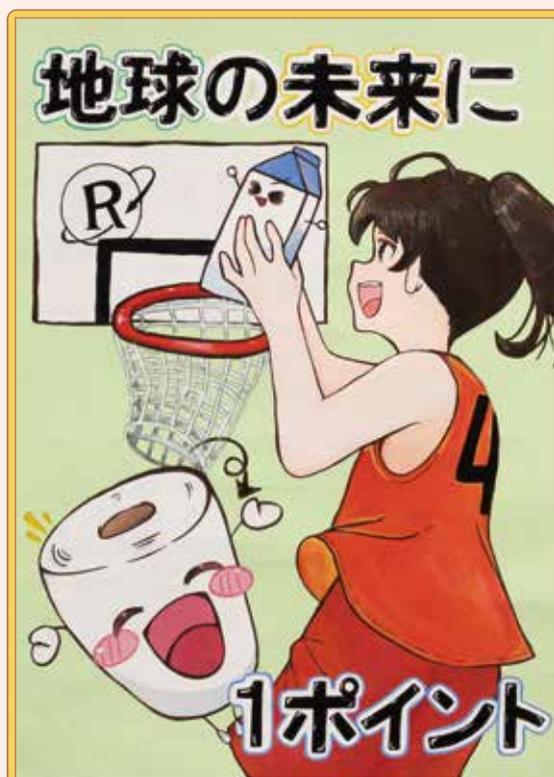
ポスター
小学生部門
銀賞

相模原市立谷口台小学校 4年 山田 恵美
ぼくたちの気持ち



ポスター
中学生部門
銀賞

岩国市立岩国中学校 2年 森本 穂乃佳
未来へダンクシュート!!





荒川区立第二日暮里小学校 4年 安喰 みあ

ざつがみ様をさがせ

私は、夏休みに家の中のいろいろな場所でざつがみをさがした。夏休み中に一番探したのはお母さんだと思つ。例えば、学校に行っている間に家をそうじしてざつがみをすてずに集めてくれた。集めた量は少ないけれど、紙ぶくろ一つ分は集まった。学校に持っていくと、四年生では三十キログラムもあった。

この計画は、企業が主催で、紙ぶくろは白黒で表にはざつがみ様をさがせと書いてあり、まるでゲームのようにさがしたくなるようなタイトルだと感じた。うらにはざつがみであるかないかの説明があった。これはざつがみなのかわからない時に助かった。ここで、ざつがみつて何と思つている人がいると思つので説明する。ざつがみというのは、おかしの箱、ラップのしん、チラシ、コピー用紙などである。この作文を書くから、自分一人の力でざつがみを集めた。十月十三日から十一月二十一日まで、三十九日。ざつがみを集めた結果は一・七キログラムだった。意外に集めるのが大変だった。ざつがみは、私の家にあまりないことが分かった。ざつがみが何に生まれ変わるか調べたら、ざつがみはダンボールやトイレトペーパー、紙箱に生まれ変わつていく。このことを、知つて私はこれから、ふつつのトイレトペーパーではなく紙リサイクルされた紙製品を使おうと思つた。お母さんに古紙を利用した製品に変えようと言おう。

さて、みなさんは紙リサイクルの仕組みを知つているだろうか。まずは、私たちがしっかり分けて回収に出す。次に、さまざまな人の手を経て再生される。最後に古紙を利用した製品を買つ。このくり返しだ。

これからの時代、紙はあまり使われなくなる。今の時代はデジタルの時代だ。年賀じょうだつて書く人が減り続けている。それは、メールやSNSなどのインターネットで送れるようになってしまったからだ。はがきを出すには、切手がある。お金がかかる。わざわざ出に行かなくてはならない。しかし、メールはちがう。メールは、お金がかからない。わざわざ出に行く必要はない。文字を打つてボタンをおすだけで送れる。こう考えると、メールの方があつとう的に便利だ。

だとしても、私は、紙に書くはがきを選ぶ。それは、はがきの方が心がこもつていてあつたかいい気がするからだ。今回のざつがみ様をさがしたことで紙の大切さに気づいた。だから、わざわざはがきを出す。それは、相手のために足を運ぶということ。もつた人は自分のために足を運んでくれたとうれしくなる。デジタル化が進む今、それでも、紙を使う。



中之島小中一貫校 6年 水野上 夕乃

世界中の人々と地球を笑顔に

私の学校では、紙リサイクル活動をしている。紙リサイクル活動を学校で行う理由は、子ども達にSDGsやリサイクル活動の良さや大切さを知つてもらつたためだ。

具体的な活動内容は、生徒から先生のみならず協力して古紙を集め紙リサイクル会社に渡し、トイレトペーパーになったりサイクル品を使用することだ。

この紙リサイクル活動の良いところは、環境に優しい活動を小学校低学年から大人まで簡単に取り組むことができ、自分たちが集めた古紙でつくられたリサイクル品を見たり使ったりした時に、自然と笑顔になれるところだ。

私は、そんな素晴らしい紙リサイクル活動をより沢山のの人々に知つてもらい、協力してもらいたいと思つ。しかし、沢山のの人に協力してもらつたためにはみんなに紙リサイクルを知つてもらわなければならない。私は、最初に小学生からでなく幼稚園生などのとても幼い子にも紙リサイクルを知つてもらい、意識して欲しいと思つ。幼い頃から紙リサイクルやSDGsに触れることで協力しようとする気持ちが大人と比べて圧倒的に大きくなりやすいからだ。

具体的な活動内容は小学生、中学生が紙リサイクルについて教えたリ、私の学校のように実際に古紙を寄付してリサイクル会社に渡し、生まれ変わった紙を使用してもらいたいと思つ。私の学校ではトイレトペーパーだったが、幼稚園生であれば画用紙や折り紙にリサイクルをしたら良いのではないか。そうすることで、より紙リサイクルに協力したと実感することができらる。もう一方で小学生や中学生も紙リサイクルについて教える機会をつくることで改めて紙リサイクルについて考え、より意識が高まると思つ。

また、ショッピングモールなどの人の目にとまりやすい場所では、紙リサイクル会社の人が紙リサイクルボックスを配置し、古紙を寄付してもらえらるよう声をかけたり寄付してくれた人にはリサイクル品をあげるといふのも良いだろう。リサイクル品を見せたり渡したりすることで、寄付した古紙はどうなるのかを想像しやすくなり、寄付したい気持ちが大きくなる。

これら2つの活動だけでも紙リサイクルをできる量は必ず増える。そして、紙が生まれ変わると同時に誰かの笑顔も必ず増える。地球も笑顔になる。そして、私はより笑顔を増やしたい。世界中に紙リサイクルで笑顔の花を咲かせたい。そのためには、あなたの力が必要です。一人ひとりの協力が、世界を救うたねになる。この言葉が世界に広まるのを私は信じている。

作文
小学生部門
銅賞

静岡サレジオ小学校 4年 牧田 桜子

古紙リサイクルの大切さ

最近、地球温暖化や、自然が減るといった、環境に関する問題がたくさんだ。

私は、よく薬局などのしせつに古紙を出している。何気なく収集場に出している古紙だが、私はその度に、

「古紙をリサイクルして、何の意味があるのかな。」

と疑問に思っていた。それから気になって調べた。そして、古紙をリサイクルすることの大切さを知った。

古紙をリサイクルすると、メリットはたくさんある。例えば、森林資源のほど、エネルギー消費量の削減、ごみの量の軽減など、調べればきりがなくいろいろとたくさんあった。

しばらく調べていて、これらの共通点を見つけた。古紙をリサイクルすることは、持続可能な地球の実現にこうけんしていることだ。最近少なくなっている自然をほごすることで、動植物と人が共存できる。エネルギー消費量をへらせば、CO₂が減るので、最近の問題である地球温暖化を食い止め、持続可能な地球にすることができる。古紙をリサイクルすることで、最近の環境問題が解消に近づくのは予想外だった。

しかし、このような効果は、たくさんの方が古紙リサイクルに取り組む必要がある。私のような子供は、古紙リサイクルの大切さを知らない人が多いと思う。そこで私は、子供でも楽しく参加できるイベントを開催することが有効だと考える。ただ、そのイベントによりたくさんの子供が参加するためにはワクワクするイベントにする必要がある。

例えば、古紙リサイクル検定を作る。漢検や英検のように毎年行われ、古紙リサイクルについてのぐらいい知っているかをたしかめることができる。これなら親子で楽しく学べそうだ。友達ともいっしょに学べる。賞状が再生紙であれば、なおおもしろい。他には、小さい子を対象にした勉強会を開く。小さい子はそもそも古紙とは何か分からない子もいると思う。だから、未就学児を対象に、古紙について話す機会をもつけるとより良いと思う。

このような取り組みが実現し、持続可能な地球に近づくことをねがっている。そして、私はこれからも古紙リサイクルを続けていきたい。

作文
中学生部門
銅賞

都城市立姫城中学校 3年 北郷 優斗

都城から考える 紙を大切に使う心

宮崎県都城市に住む私が紙の消費を考えると、かつてこの地で盛んだった和紙文化の知恵を思い出す必要がある。清らかな水と豊かな自然に囲まれた都城は、和紙の原料である楮を育て、手漉き和紙を行うのに適していたが、洋紙の出現により、この文化は衰退し、原料の楮さえも姿を消した。持続可能な社会を目指す今、私たちは単なるリサイクルを超え、和紙が持つ「循環の知恵」を取り戻す必要がある。

都城が失った和紙の文化には、現代に必要な究極の循環システムが詰まっている。洋紙の原料となる木材が回復に数十年かかるのに対し、楮は根を残せば毎年新しい枝を出し、繰り返し収穫可能な宿根性の植物だ。これは資源の過度な消費を防ぐ。さらに、和紙の最大の特長は「漉き返す」ことができる点である。洋紙の繊維が劣化するのに対し、天然素材100%の和紙は、水に浸すだけでほぼ無制限に漉き返すことができる。紙の寿命を何度も「繰り返し」、日本の伝統的な知恵そのものなのである。

現代社会の紙リサイクルは重要であるが、私はその前に「紙を大切に使う心」を育てプロセスも不可欠であると感じる。「リサイクルすれば良い」という考えは「使い捨ての意識」を温存させ、資源消費を防げる。手間暇かけて作られた和紙の丈夫さや美しさは、紙を「消耗品」ではなく「命を繰り返す価値のあるもの」に変える。紙を大切に使うことは、原料を育んだ自然と、人の手間に想いをはせるという「生産と自然への敬意」に他ならない。この「循環させる意識」こそが、最も確実な環境推進力であると信じる。

私はこの和紙の知恵を都城の未来に活かすため、まず地域で原料を再生すべきだと考えた。先日、関西万博の会場に植えられていた楮の苗に可能性を感じ、閉幕後にスポンサーに交渉し、幸運にも苗を分けもらった。この貴重な楮の苗を、私は都城の清らかな水が流れる場所に植える計画を、市の地域プロジェクトマネージャーと立てている。地域の人々と一緒に楮を育て、その成長を見守る活動を通じて、紙の原料が「遠い森」ではなく「自分の住む都城の土と水」から生まれるという実感をもたせたい。

原料を守り育てるプロセスは、地域全体の紙を大切に使う心を深め、失われた和紙文化への誇りを再生させる一歩となる。和紙が教えてくれた循環の知恵を都城から発信し、紙一枚を大切に社会を目指す。私はこの取り組みを進めていきたい。



横浜市立中川西中学校 3年 友永 陽菜

みんなで進める紙リサイクル

夏休みに入り、私は我が家の「ゴミ出し担当」になった。とはいっても、母がまとめてくれたものを、近所の回収場所に持っていくだけで、別に大変なことではない。ある紙の回収の日、私はいつもの場所に、ダンボールや牛乳パックなどを持っていった。その時、ふと近くの柱に目を向けると、緑色のステッカーと青色のステッカーがあった。何だか無性に興味が湧いてきた。

家に帰って、さっそく母に聞いてみると、私が住んでいる横浜市中では、「燃やすゴミ」や「プラスチックゴミ」は行政回収、「紙類」は資源集団回収と区別されていることを教えてもらった。行政回収は市が行っているもので青色、資源集団回収は地域団体が行っているもので青色、それぞれ回収場所の目印になっているそう。また、母は「資源集団回収はリサイクル活動の一つなんだよ」と私に言った。とても驚いた。「リサイクル活動」は、何だか自分とは無関係な、遠い存在だと思っていた。まさか、気付かないうちに自分も関わっていたなんて。

その日以降、「リサイクル」の仕組みについて気になり、資源集団回収について調べてみた。資源集団回収制度とは、家庭から回収場に出される古紙を、自治会、町内会等の地域団体が契約した民間の回収業者に回収してもらうことだそう。登録団体と回収業者には、回収量に応じた奨励金が市から交付される。回収された資源は、その後リサイクルされている。横浜市では現在、家庭から出される古紙の全てが資源集団回収によって回収されている。これはすごい事だと思う。しかし、私は「なぜ市がまとめて回収しないのだろう」と疑問に思った。わざわざ資源集団回収を行わなくても、行政回収を行い、市がリサイクルをすればスムーズなのではないか。

数日後、私はいつも通り古紙を回収場所へ持っていった。その時、たまたま出会った自治会長さんに「いつもきれいにしてくれてありがとう」と声をかけられた。私ははっとした。古紙回収の場が、地域の人とコミュニケーションを取れる場所になっていた。これが資源集団回収をする理由の一つなのではないか。市ではなく、地域団体が行う取り組み「資源集団回収によるリサイクル」は、一人一人個人として参加するだけでなく、地域全体が一つになって参加できるのだ。コミュニケーションを取りながら共通意識を持つことで、個人の意識も高めることができる。それにより、また周囲の人の意識が高まる。

よくリサイクルは、「一人一人が行動を」と聞く。もちろんそれも大切だ。だが、この言葉から、何だか大変そうに堅苦しい印象を受け取る人もいるのではないか。そんな時、リサイクルは「みんなで一緒に取り組んでいるんだ」と思えたら、新たな一歩を踏み出せる人が増えるかもしれない。



いの町立本川中学校 3年 高橋 そよか

リサイクルって、紙の第二章。

私は、普段何気なく使っていたメモやプリントを、特に考えずに捨てていました。授業で使った紙、書き間違えたノート、それらはすぐにゴミ箱行き。紙に命があるなんて、思ったこともありませんでした。その考えが変わったのは、中学生になって地域の清掃活動に参加したときのことです。風の強い寒い日、道路に落ちた色あせた新聞紙を拾いました。敗れた文字を見たとき、私はふと思いました。「この紙も、もとは木だったんだ。」

紙は自然から命をもらって生まれたもの。私は、それを何の感謝もなく使い捨ててきたのだと気づきました。紙を捨てるということは、ただのゴミ処理ではなく、自然の命を無駄にしていることかもしれない。強い罪悪感が胸に残りました。

それから私は、紙を無駄にしないことを意識するようになりました。プリントの裏紙を使い、ノートの空白も大切に使う。家ではリサイクル用の箱を設け、学校でも友達と声をかけ合いながら紙を集め、再利用するようになりました。リサイクルマークがついた商品を選び、古紙を使った文房具も進んで使うようになりました。日々の生活の中で、小さなことから意識して行動するようになりました。

SDGsの「目標12…つくる責任つかう責任」や「目標15…陸の豊かさを守ろう」を学び、私たちが使う資源には責任があることを実感しました。紙一枚であっても、それをどう使うかで未来は変わるのです。また、地域のリサイクルフェアで、古紙がノートやトレットペーパーに生まれ変わる様子を見ました。捨てられた紙が新しい命として生まれ変わる姿に、私は感動しました。「紙の第二章」がそこにはありました。リサイクルされた製品が私たちの生活の中で再び使われていく、その循環の大切さを強く感じました。限りある資源を守ることは、私たちの未来を守ることでもあるのです。

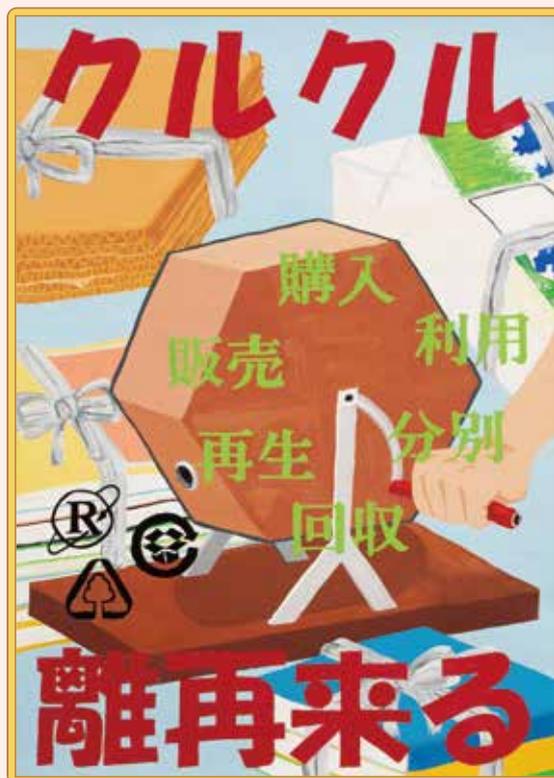
それ以来、私は紙を使うたびに「続きを書いてあげよう」という気持ちで大切に使っています。小さな行動でも、それが積み重なれば、大きな力になる。私の周りでも少しずつ意識が変わり、友達や家族も一緒にリサイクルに取り組むようになりました。私は、これからは「紙の第二章」をつなぐ一人でありたいと思います。そして、自分の行動が誰かの心を動かし、地球の未来を少しでも良くする力になると信じています。「紙の第二章」は、私たち一人ひとりの手の中にあるのです。命を受け継ぐその一枚の紙に、私は今日も新たな物語を綴っていきます。



福知山市立惇明小学校 5年 迫田 夏知
広げよう!つなげよう!紙リサイクル

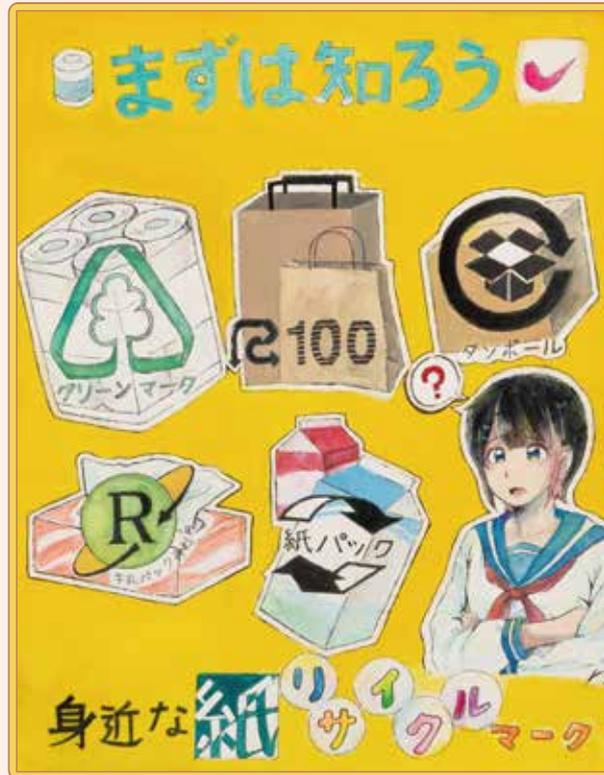


今治市立大三島中学校 2年 木村 佳奏
リサイクルは離再来る



ポスター
中学生部門
銅賞

北区立稲付中学校 3年 金子 かりん
まずは知ろう



ポスター
中学生部門
銅賞

山形大学附属中学校 1年 佐藤 綾芽
よーいドン! リサイクルのバトンをつなげ!!





学校特別賞

東京都 荒川区立第三日暮里小学校



【沿革】

大正7(1918)年4月開校

児童数 417名

学級数 14学級

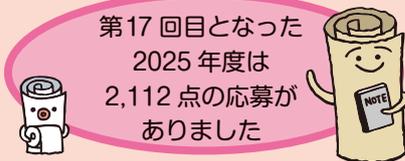
校長先生からのコメント

日頃から子どもたちが、紙のリサイクルのための分別に取り組むなど、資源を大切にすることを高く評価していただき、大きな励みとなりました。本校では、環境教育と合わせて学校図書館活用教育にも力を入れていて、子どもたちは紙の本のよさや大切さを実感しています。今回の受賞を機に、子どもたちの物を大切にする心と学びへの意欲を、今後も継続して育ててまいりたいと思います。

継続応募年数13年(平均作品数143点)

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト

毎年度、全国の小中学生に“紙リサイクル”に関する作文、ポスター作品の募集を行い、応募作品の中から優秀作品を選定し、受賞者を表彰しています。



第17回目となった
2025年度は
2,112点の応募が
ありました

【コンテストの内容】

募集対象 全国の小学生・中学生ならどなたでも

テーマ ・紙リサイクルに関する活動・体験やアイデア
・紙リサイクル活動と持続可能な社会づくり

募集部門 作文（小学生部門、中学生部門）
ポスター（小学生部門、中学生部門）

スケジュール 例年5～6月 募集開始、秋頃締切

* 来年度の募集開始・応募締切は
当センターホームページ等にてお知らせします。

賞と賞品

文部科学大臣賞 作文部門1点、ポスター部門1点
(賞状・楯・副賞図書カード5万円)
金賞 各部門1点(賞状・楯・副賞図書カード3万円)
特別金賞 3点(賞状・楯・副賞図書カード3万円)
銀賞 各部門1点(賞状・楯・副賞図書カード1万円)
銅賞 12点(賞状・副賞図書カード2万円)
学校特別賞 2校以内(賞状・副賞ギフトカード5万円)
学校奨励賞 2校(賞状・副賞ギフトカード2万円)
参加賞(応募者全員に記念品)

2025年度 応募数

応募点数	小学生	中学生	合計
作文部門	97	178	275
ポスター部門	669	1,168	1,837
合計	766	1,346	2,112

応募件数	小学校	中学校	合計
応募学校数	27	70	97
教室、塾など	10		
個人応募数	78	総件数	185



学校奨励賞 小学校部門

東京都 荒川区立第三日暮里小学校

応募作品数 264点（作文68点、ポスター196点）

学校紹介

荒川区東日暮里にある本校は、開校107年の歴史と伝統を誇り、開校当時着任した中村雨紅先生が作詞し発表された「夕焼け小焼け」は、本校の第二校歌として今も歌い継がれているなど、「ゆうやけこやけの学校」として地元の方から愛され親しまれている学校です。紙のリサイクルなど地域に根ざした教育を大切にしながら、環境教育に取り組んでいます。また特色として、学校図書館活用教育にも長年取り組んでおり、本が好きな子・本が使える子を育てています。



【沿革】
大正7(1918)年4月開校
児童数 417名
学級数 14学級



学校奨励賞 中学校部門

広島県 広島市立二葉中学校

応募作品数 370点（ポスター370点）

学校紹介

本校は、昭和26年に創立されました。広島駅北側の二葉山の麓に広がる豊かな自然と、由緒ある歴史的環境の中にある学校です。地域清掃（クリーンマイタウン二葉）、地域緑化活動等のボランティア活動や地域による学習支援活動が認められ平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。これらの活動は今でも行われ本校の伝統となっています。普段身近に使っている紙は、便利だけでなく限りある資源なのでリサイクルできるものはリサイクルしていくようにしています。



【沿革】
昭和26(1951)年4月開校
生徒数 721名
学級数 31学級

【応募学校数】 小学校：27校 中学校：70校 総数：97校

審査会ノミネート校・教室一覧

審査会にノミネートされた作品の応募校名・教室名一覧です。

作文小学生部門

福島県	郡山市立朝日が丘小学校
東京都	荒川区立第二日暮里小学校
東京都	荒川区立第三日暮里小学校
静岡県	静岡サレジオ小学校
愛知県	名古屋市立川原小学校
京都府	福知山市立惇明小学校
大阪府	中之島小中一貫校
兵庫県	加古川市立氷丘南小学校
愛媛県	愛媛大学教育学部附属小学校
福岡県	明治学園小学校
熊本県	八代市立千丁小学校

作文中学生部門

千葉県	専修大学松戸中学校
東京都	筑波大学附属中学校
神奈川県	横浜市立中川西中学校
山梨県	北杜市立甲陵中学校
岐阜県	大垣市立東中学校
静岡県	静岡市立清水飯田中学校
大阪府	咲くやこの花中学校
大阪府	中之島小中一貫校
鳥取県	鳥取市立河原中学校
岡山県	岡山市立御南中学校
高知県	いの町立本川中学校
福岡県	柳川市立大和中学校
宮崎県	都城市立姫城中学校

ポスター小学生部門

北海道	札幌市立資生館小学校
山形県	山形大学附属小学校
福島県	郡山市立朝日が丘小学校
東京都	荒川区立第三日暮里小学校
東京都	大田区立羽田小学校
東京都	多摩市立連光寺小学校
東京都	江戸川区立新田小学校
東京都	チャイルド・アート教室くじら
神奈川県	相模原市立谷口台小学校
神奈川県	アトリエ ENDO
福井県	福井市社南小学校
静岡県	静岡サレジオ小学校
愛知県	刈谷市立朝日小学校
愛知県	キッズ絵画アート教室
三重県	こども絵画教室
京都府	福知山市立惇明小学校
大阪府	豊中市立中豊島小学校
山口県	防府市立牟礼南小学校
福岡県	古賀市立古賀東小学校
大分県	アトリエきつき

ポスター中学生部門

岩手県	岩手県立一関第一高等学校附属中学校
宮城県	石巻市立住吉中学校
山形県	山形市立第七中学校
山形県	山形大学附属中学校
福島県	棚倉町立棚倉中学校
東京都	淑徳与野中学校
東京都	葛飾区立常盤中学校
東京都	北区立稲付中学校
神奈川県	アトリエ ENDO
神奈川県	川崎市立犬蔵中学校
富山県	富山市立新庄中学校
長野県	安曇野市立豊科南中学校
静岡県	浜松市立三方原中学校
大阪府	中之島小中一貫校
大阪府	大阪市立董中学校
岡山県	玉野市立宇野中学校
広島県	広島市立二葉中学校
山口県	岩国市立岩国中学校
愛媛県	今治市立大三島中学校
佐賀県	佐賀県立武雄青陵中学校
宮崎県	宮崎市立生目中学校
鹿児島県	始良市立重富中学校

※都道府県別。団体・個人応募問わず。



みんなの作品
応募ありがとう!

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2025 入賞者一覧・受賞作品 作品集

企画・発行

公益財団法人古紙再生促進センター

<http://www.prpc.or.jp/>

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4F

TEL:03-3537-6822 FAX:03-3537-6823



古紙再生促進センターは2024年で創立50周年を迎えました

本作品集は
Webサイトからも
ご覧いただけます



http://www.prpc.or.jp/activities/public_relations/award/